

# 2024 全国学力・学習状況調査

## 結果分析

令和6年10月

四日市市教育委員会

# 目 次

1	全国学力・学習状況調査結果の5年間の推移	P 2
2	教科別 正答数分布グラフ	P 4
3	校種・教科別 調査結果概要	P 6
4	児童生徒質問紙の結果について	
(1)	教科の意識に関する質問	P 10
(2)	「学習の基盤となる力」に関する質問	P 15
(3)	「キャリア教育」に関する質問	P 21
(4)	学校生活等の意識に関する質問	P 23
(5)	生活習慣と学力の関連	P 25
5	学校質問紙の結果について	
(1)	全国学力・学習状況調査問題の活用	P 28
(2)	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 に関する取組状況	P 28
(3)	総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳の指導方法	P 30
(4)	小学校教育と中学校教育の連携	P 30
(5)	I C Tの活用	P 31
(6)	家庭学習	P 32
6	今後の取組の重点	P 33
7	読解力・論理的思考力向上～授業づくりの3つのポイント～	P 36
	【小学校…国語・算数】【中学校…国語・数学】	
8	参考資料	P 43

# 1 全国学力・学習状況調査結果の5年間の推移 (R1～)

※ 平成29年度から、文部科学省の結果提供（平均正答率）は、本市と三重県は整数値、全国は小数値となっています。

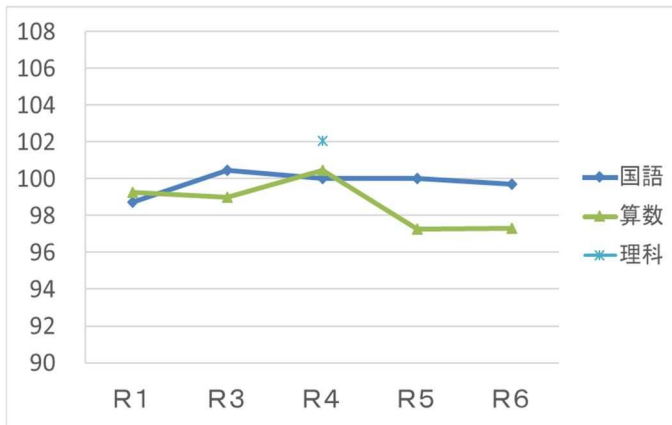
※ 数値は平均正答率。

小学校		国語	算数	理科
令和元年度	本市	63	66	
	三重県	64	67	
	全国（公立）	63.8	66.6	
令和3年度	本市	65	70	
	三重県	64	69	
	全国（公立）	64.7	70.2	
令和4年度	本市	66	63	65
	三重県	65	62	63
	全国（公立）	65.6	63.2	63.3
令和5年度	本市	67	61	
	三重県	67	62	
	全国（公立）	67.2	62.5	
令和6年度	本市	67	62	
	三重県	67	62	
	全国（公立）	67.7	63.4	

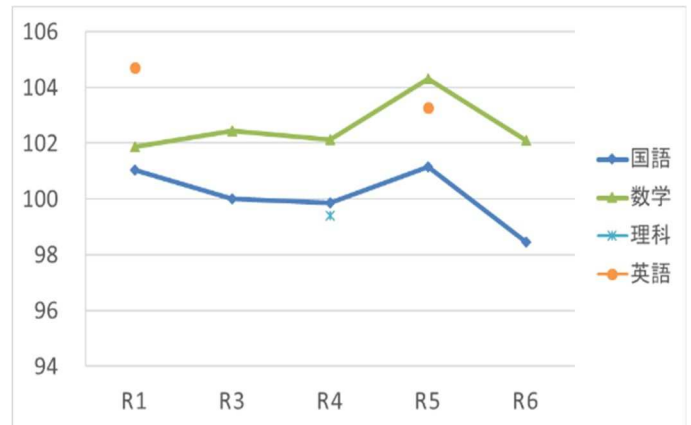
中学校		国語	数学	理科	英語			
					聞く	読む	書く	話す
令和元年度	本市	73	61		58			
	三重県	72	60		56			
	全国（公立）	72.8	59.8		56.0			
令和3年度	本市	65	59					
	三重県	63	58					
	全国（公立）	64.6	57.2					
令和4年度	本市	69	52	49				
	三重県	68	52	48				
	全国（公立）	69.0	51.4	49.3				
令和5年度	本市	71	53		47			
	三重県	69	51		45			
	全国（公立）	69.8	51.0		45.6			
令和6年度	本市	57	54					
	三重県	57	53					
	全国（公立）	58.1	52.5					

○ 各教科別調査結果から(全国の平均正答数を100としたときの本市結果の経年変化)

小学校

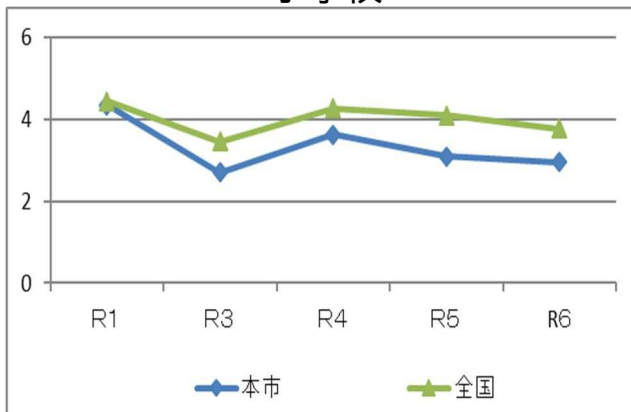


中学校

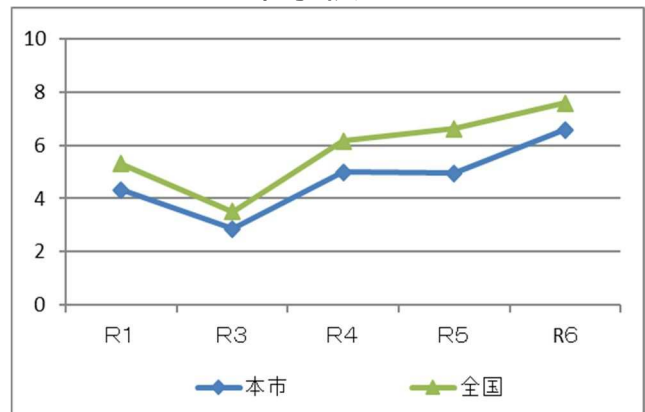


○ 無解答率の経年変化(各教科の無解答率の平均)

小学校



中学校



小学校は国語、算数において、共に三重県平均と同等、全国平均は下回る結果でした。  
 中学校は国語が三重県平均と同等、全国平均は下回り、数学が三重県・全国平均以上の結果でした。

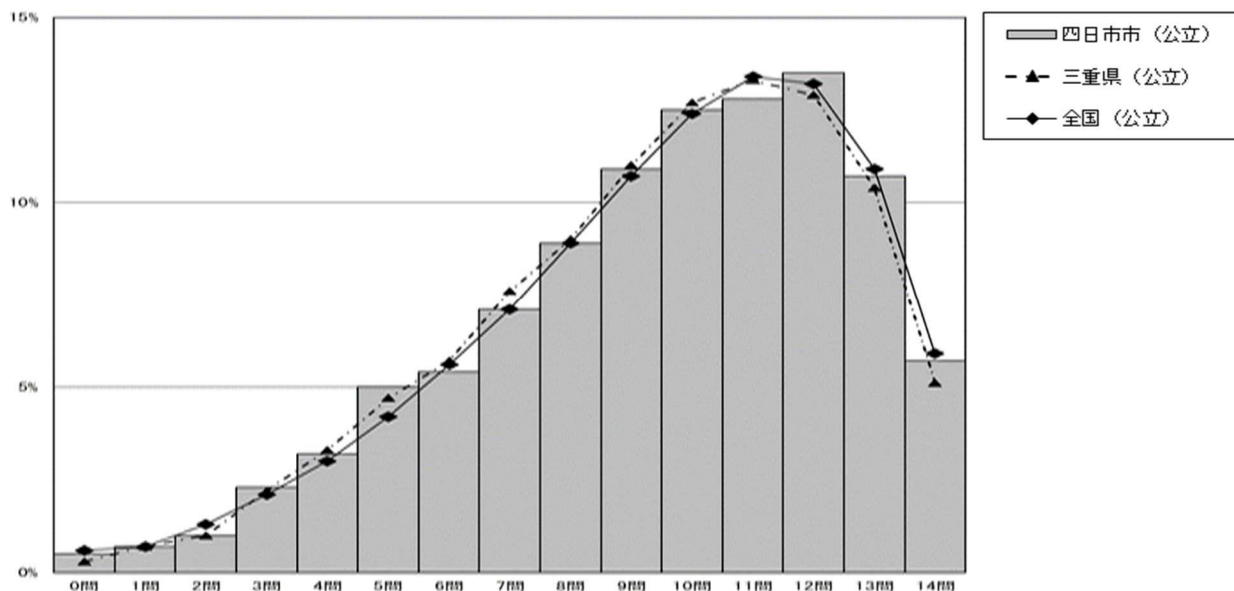
		強み	弱み
小学校	国語	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること	自分の考えが伝わるように表現方法(話し方の工夫)として適切かどうかを判断すること
	算数	必要なデータを取り出して、落ちや重ならないように分類整理すること	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること
中学校	国語	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択すること	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること
	数学	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること	

## 2 教科別 正答数分布グラフ (小学校)

### 国語

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
四日市市(公立)	2,401	9.4 / 14	67	10.0	3.1
三重県(公立)	13,473	9.4 / 14	67	10.0	3.0
全国(公立)	947,364	9.5 / 14	67.7	10.0	3.1

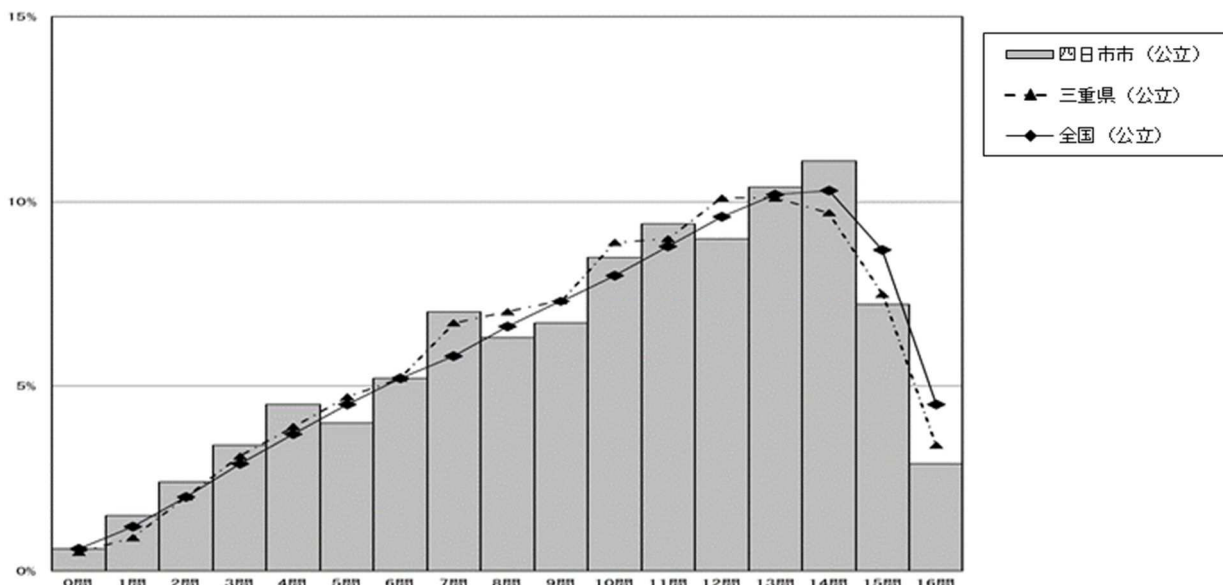
(横軸：正答数(問) 縦軸：割合(%))



### 算数

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
四日市市(公立)	2,401	9.9 / 16	62	11.0	3.9
三重県(公立)	13,492	10.0 / 16	62	10.0	3.8
全国(公立)	947,579	10.1 / 16	63.4	11.0	3.9

(横軸：正答数(問) 縦軸：割合(%))

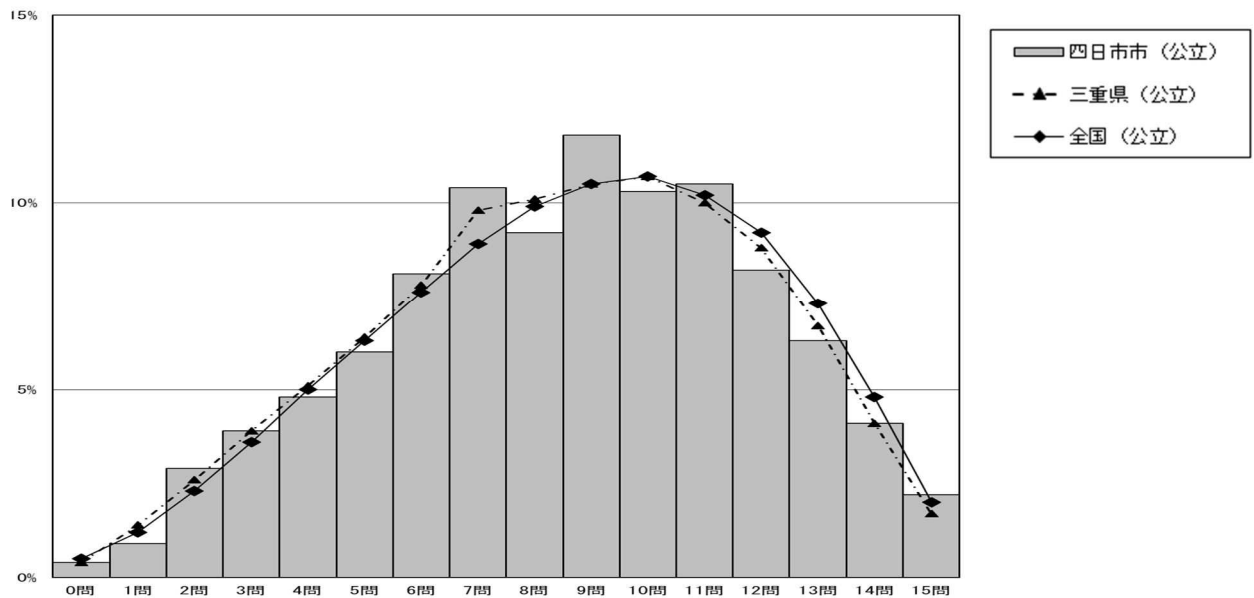


## 2 教科別 正答数分布グラフ (中学校)

### 国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
四日市市(公立)	2,259	8.6 / 15	57	9.0	3.3
三重県(公立)	13,251	8.5 / 15	57	9.0	3.3
全国(公立)	875,574	8.7 / 15	58.1	9.0	3.4

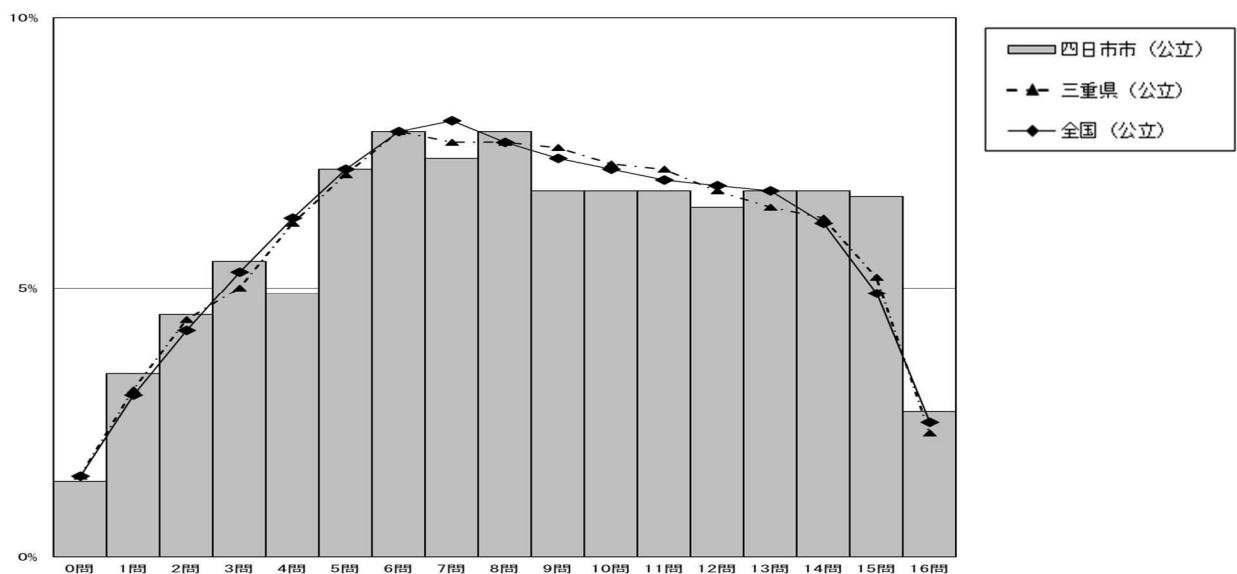
(横軸：正答数(問) 縦軸：割合(%))



### 数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
四日市市(公立)	2,264	8.6 / 16	54	9.0	4.3
三重県(公立)	13,263	8.4 / 16	53	8.0	4.1
全国(公立)	875,952	8.4 / 16	52.5	8.0	4.1

(横軸：正答数(問) 縦軸：割合(%))



### 3 校種・教科別 調査結果概要（小学校）

#### 【 小 学 校 国 語 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	国語			問題形式	国語		
	問題数	四日市市	全国		問題数	四日市市	全国
言葉の特徴や使い方に関する事項	4	63.8	64.4	選択式	10	69.8	69.9
情報の扱い方に関する事項	1	85.9	86.9	短答式	2	57.9	59.7
我が国の言語文化に関する事項	1	76.1	74.6	記述式	2	65.5	64.6
話すこと・聞くこと	3	58.6	59.8				
書くこと	2	68.9	68.4				
読むこと	3	71.3	70.7				

(2) 本市の解答状況【小学校 国語】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い      ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い  
 ▼ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い      ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等						問題形式			
				言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	選択式	短答式	記述式	
1二(1)	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる	▼										
1二(2)	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	▼										
2三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（きょうぎ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる	▼										
3一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	○										

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について記載しています。

# 【 小 学 校 算 数 】

## (1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	算数			問題形式	算数		
	問題数	四日市市	全国		問題数	四日市市	全国
数と計算	6	63.6	66.0	選択式	5	73.3	75.3
図形	4	65.1	66.3	短答式	7	60.2	62
測定	-			記述式	4	49.8	51.0
変化と関係	3	49.2	51.7				
データの活用	4	61.1	61.8				

※ 一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

## (2) 本市の解答状況【小学校 算数】

◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い      ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い  
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い      ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等					問題形式			
				数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	選択式	短答式	記述式	
1(1)	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる	▽									
1(2)	はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる	▽									
2(2)	除数が1/10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	▽									
3(2)	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	▽									
3(3)	直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さとして立方体の一辺の長さを捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	▽									
4(1)	540÷0.6を計算する	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	▽									
4(3)	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	▼									
4(4)	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる	▽									
5(4)	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	▽									

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について記載しています。

### 3 校種・教科別 調査結果概要（中学校）

#### 【 中 学 校 国 語 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	国語			問題形式	国語		
	問題数	四日市市	全国		問題数	四日市市	全国
言葉の特徴や使い 方に関する事項	3	59.9	59.2	選択式	9	61.1	61
情報の扱い方に 関する事項	2	60	59.6				
我が国の言語文化に 関する事項	1	78	75.6	短答式	3	59.6	61.8
話すこと・聞くこと	3	57.0	58.8	記述式	3	42.9	45.5
書くこと	2	63.3	65.3				
読むこと	4	45.7	47.9				

(2) 本市の解答状況【中学校 国語】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い      ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い  
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い      ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	四日市市の 状況	領域等							問題形式			
				言葉の特徴や使い 方に関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化 に関する事項	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	選択式	短答式	記述式		
1二	話し合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる	▽											
1四	話し合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	▽											
2一	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる	▽											
2三	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる	▽											
3四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる	▽											
4一	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	表現の技法について理解しているかどうかをみる	○											
4二	短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる	▽											
4三	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解しているかどうかをみる	○											

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について記載しています。

## 【 中 学 校 数 学 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	数学			問題形式	数学		
	問題数	四日市市	全国		問題数	四日市市	全国
数と式	5	51.6	51.1	選択式	5	59.0	58.5
図形	3	40.9	40.3	短答式	6	67.9	67
関数	4	61.1	60.7	記述式	5	31.1	29.3
データの活用	4	58.3	55.5				

(2) 本市の解答状況【中学校 数学】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い      ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い  
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い      ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

	問題の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等				問題形式		
				数と式	図形	関数	データの活用	選択式	短答式	記述式
6(2)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	○							
7(1)	障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる	○							
7(3)	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる	○							
9(1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、AQ=PBであることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	○							

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について記載しています。

## 4 児童生徒質問紙の結果について

### 【グラフの見方】

(例)毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

質問紙の質問番号

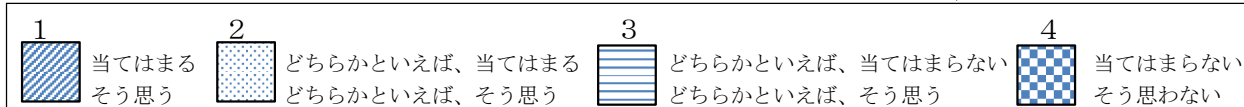
【小学校2】←

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



左から  
1・2・3・4  
の回答を表す。

- ※ 数値の合計は100にならない場合がある。
- ※ 回答方法の記載がないグラフの表示は以下のとおりである。
- ※ 肯定回答は1を選択、肯定的回答は1・2を選択した場合を表す。

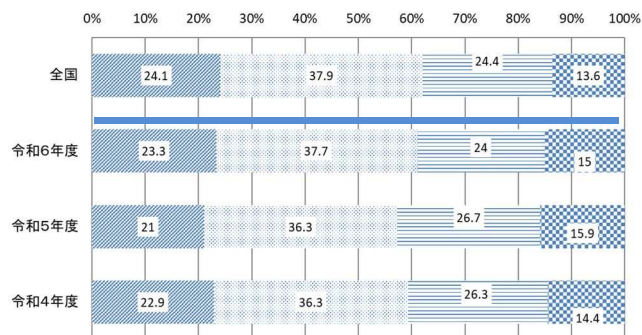


### (1) 教科の意識に関する質問

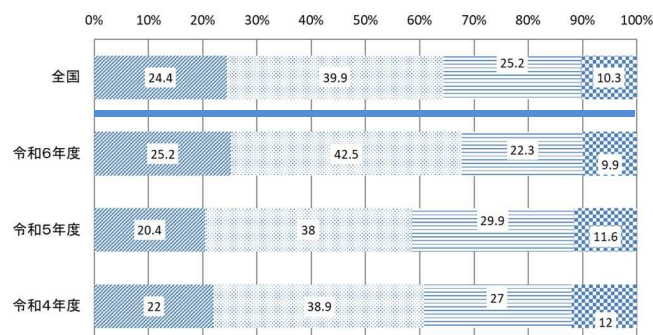
【小中:国語】

○ 国語の勉強は好きですか。

【小学校42】

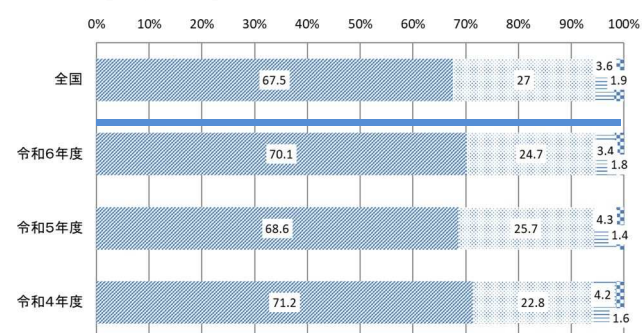


【中学校42】

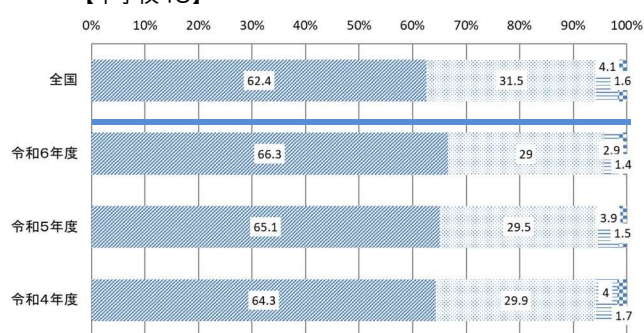


○ 国語の勉強は大切だと思いますか。

【小学校43】

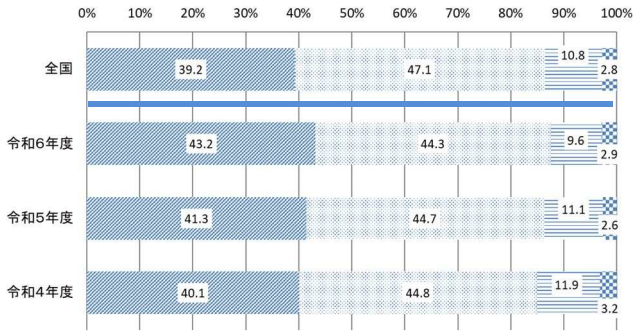


【中学校43】

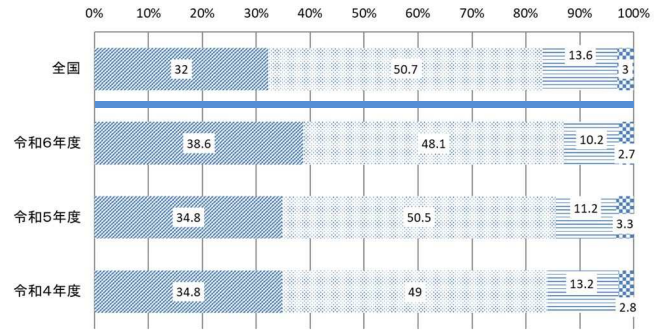


○ 国語の授業の内容はよく分かりますか。

【小学校44】

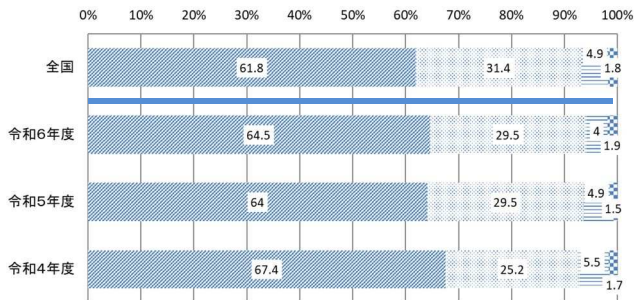


【中学校44】

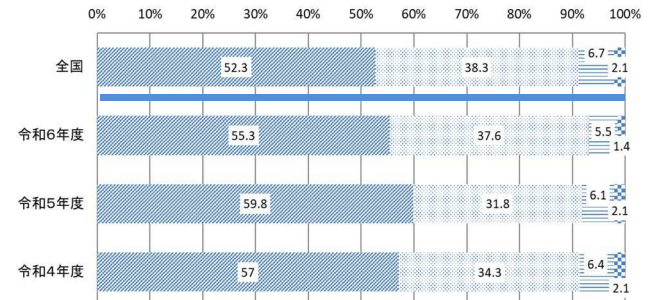


○ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

【小学校45】



【中学校45】



「国語の勉強は好きですか」の肯定的回答の割合は、令和6年度が最も高くなっているね。また、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答の割合は、年々上がってきているね。

これからも、国語に苦手意識を持っている子を含め、すべての子が学ぶ楽しさ、分かる喜びなどを感じられるように授業づくりをしていくことが大切だね。

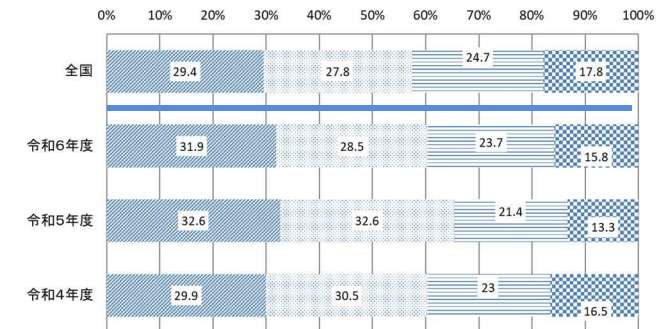
【小:算数 中:数学】

○ 算数・数学の勉強は好きですか。

【小学校50】

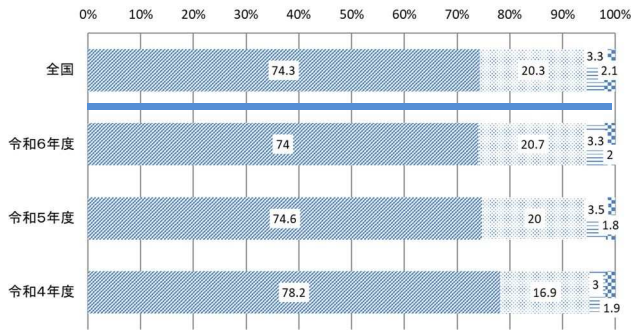


【中学校50】

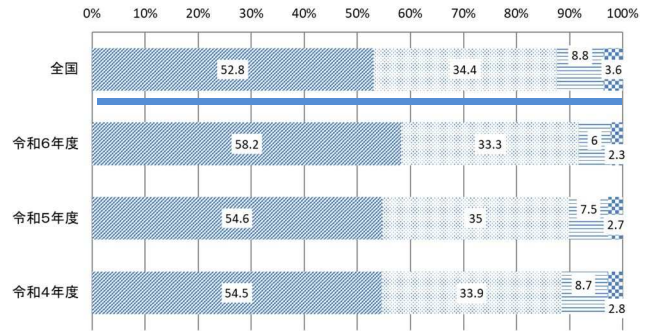


○ 算数・数学の勉強は大切だと思いますか。

【小学校 51】

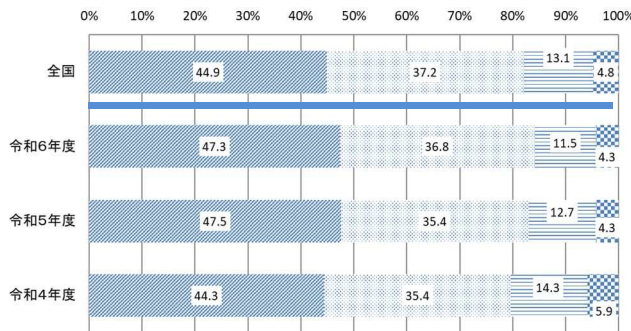


【中学校 51】

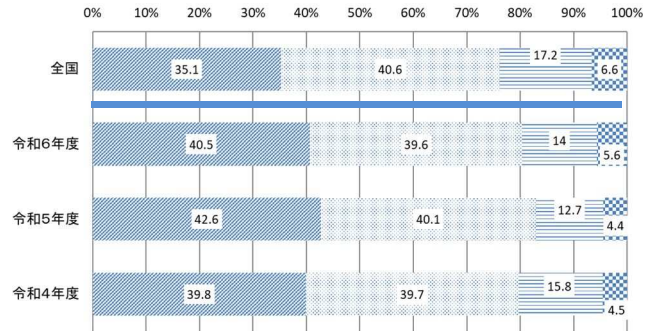


○ 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

【小学校 52】

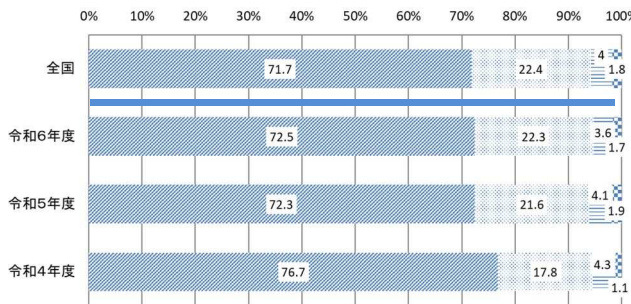


【中学校 52】

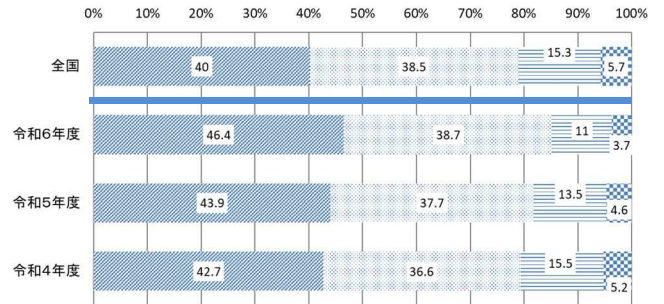


○ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

【小学校 53】



【中学校 53】



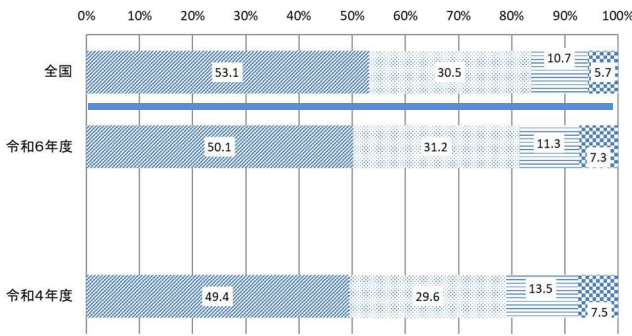
「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答の割合は、全国と比較して高いね。これからも、1つ1つの授業を大切に、子どもたちの「分かった、できた」という思いを積み重ねていこう。

小学生も中学生も「算数・数学の勉強が好きですか」の肯定的割合が、昨年度と比べると低くなっているね。指導者自身が各単元ならではのおもしろさを明確にして、子どもたちとともに授業を進めていこう。

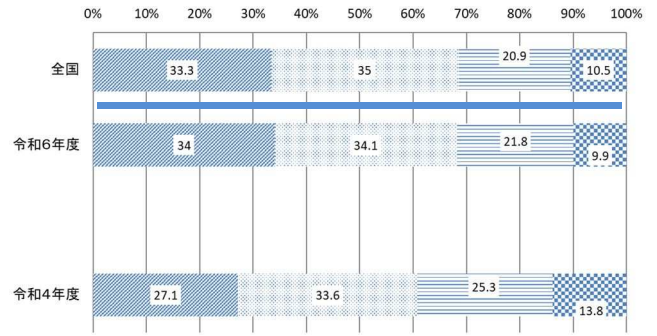
【小中:理科】

○ 理科の勉強は好きですか。

【小学校58】

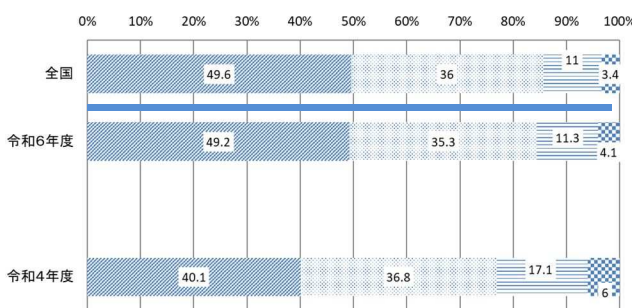


【中学校58】

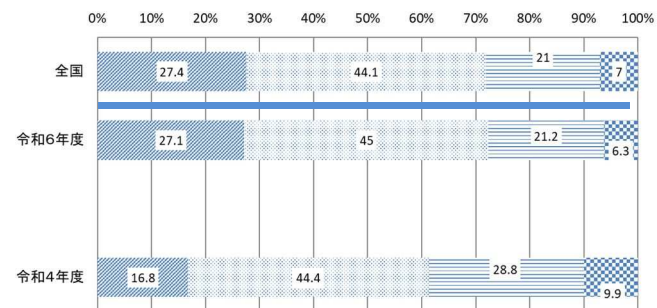


○ 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。

【小学校60】



【中学校60】



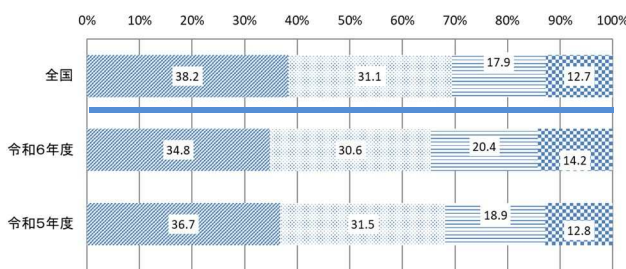
「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」の肯定的回答の割合が、令和4年度と比べると大きく伸びているよ。これからも、子どもたちが自らの予想や仮説に基づいて考え、主体的に観察や実験を行えるようにしていこう。

「理科の勉強が好きですか」の肯定的回答の割合は、令和4年度から令和6年度で伸びているね。これからも理科好きな子どもたちを増やしていこう。

【小:英語】

○ 英語の勉強は好きですか。

【小学校61】



○ 英語の勉強は大切だと思いますか。

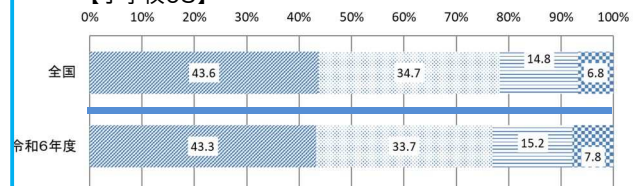
【小学校62】



四日市市の小学生は、92.3%が「英語の勉強は大切だ」と答えているね。これからも、小中学校9年間を通して、子どもたちが英語を楽しく学び、英語コミュニケーション力を身に付けられるようにしていこう。

○ 英語の授業の内容はよく分かりますか。

【小学校63】



## 【教科の意識に関する質問の全国との比較】

	授業が好き		勉強の大切さ		将来、役に立つ	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
国語	-1.0	+3.4	+0.3	+1.4	+0.8	+3.4
算数 数学	+0.4	+3.2	+0.1	+4.3	+0.7	+6.6
理科	-2.3	-0.2				
英語	-3.9		+0.2			

※全国の割合と比較したもの

<学ぶことの楽しさを引き出すために>

- 授業づくりにおいては、指導者が授業や単元のおもしろさやねらいを明確にすることが大切です。そして、授業や単元の目標や子どもたちの実態に合わせて、適切な教材や資料を提供しましょう。
  - 子どもたちを課題に出合わせる時には、子どもたちの中に「問い」や「気づき」が生まれるように工夫し、「解決したい」という思いを持ち続けられるようにしていきます。
  - 子どもたちが授業に意欲的に参加できるように、言語活動の充実を図りましょう。言語活動は、討論大会やグループでのプロジェクト活動、ディベート、プレゼンテーション大会など、各教科の特性や身に付けさせたい資質・能力に合わせて、効果的な言語活動を選択するようにしましょう。
- また、言語活動の際には、「共に学ぶ」という視点を大切にし、相手に伝わるように自分の意見を発表したり、相手の意見を尊重したりする姿を認めながら、子どもたちの「学ぶ力」「共に学ぶ力」を高めていきましょう。

## (2)「学習の基盤となる力」に関する質問

◇肯定的回答(上記1と2の合計)が、全国の結果を上回っている質問

<小中とも>

- ・ 国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか。
- ・ 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができますか。
- ・ 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。

<中のみ>

- ・ 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか。
- ・ 1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。
- ・ 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。
- ・ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
- ・ 1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。
- ・ あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

◆肯定的回答(上記1と2の合計)が、全国の結果を下回っている質問

<小中とも>

- ・ 5年生までに受けた授業で(1、2年生のときに受けた授業で)、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

<「言語能力」に関わって>

伝える

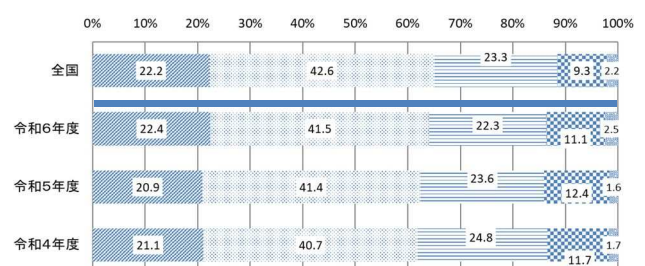
- 5年生までに受けた授業で(1、2年生のときに受けた授業で)、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



【小学校29】



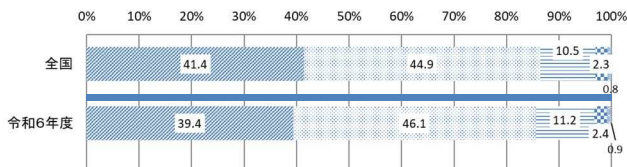
【中学校29】



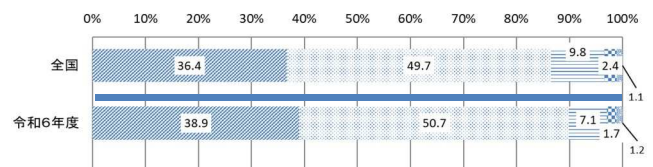
## 話す・聞く

- 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

【小学校 33】



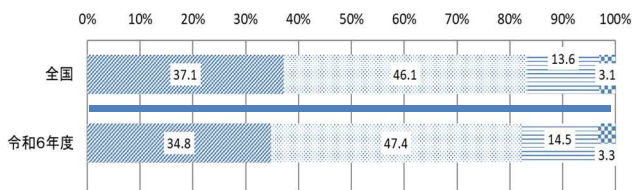
【中学校 33】



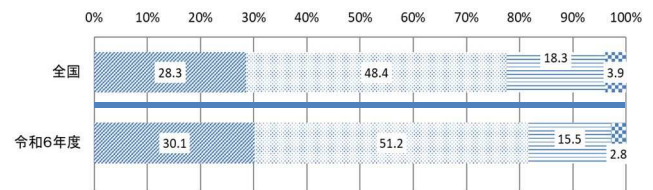
## 書く

- 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか。
- 国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか。

【小学校 48】



【中学校 48】



## 言語能力

### 四日市市の子どもたちの実態

#### 四日市市の子どもたちの実態

##### 強み

- ・ 中学校では、9割近くの子が「自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができた」と実感できる話し合い活動ができている。
- ・ 中学校は、国語の授業で「表現の効果を考えて、自分の考えが伝わるように文章を書く」という意識が全国と比較して高い。

##### 弱み

- ・ 小学校は、「話す・聞く」「書く」といった言語能力に関わる肯定的回答が全国と比較して低い結果となっている。

#### 新教育プログラム柱1

##### 読む・話す・伝えるプログラム

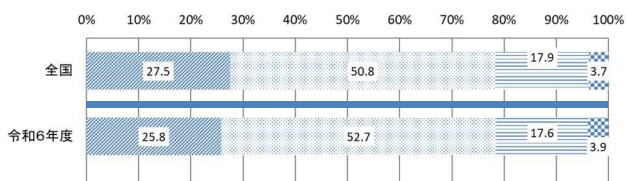


- 「言語能力」については、今後も、新教育プログラムの柱1で取り組んでいる「読解力を育む『20の観点』」等を活用した授業づくりを推進し、自分の考えがうまく伝わるために、資料や文章、話の組立てなどを工夫して表現できるよう、発達段階に応じた言語活動を充実させて、児童生徒の資質・能力を育てていきます。

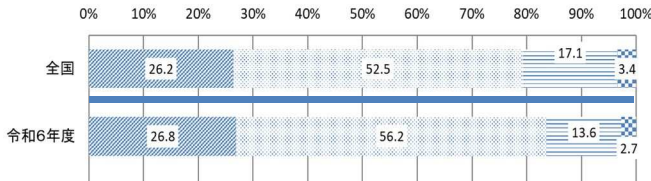
## <「情報活用能力」に関わって>

- 国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか。

【小学校46】

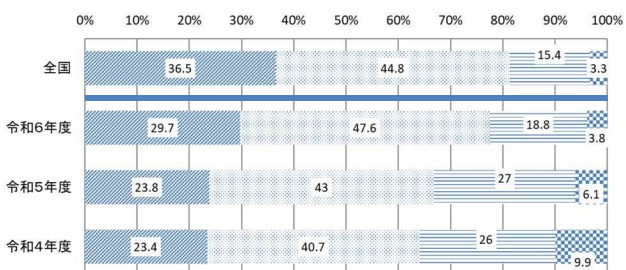


【中学校46】

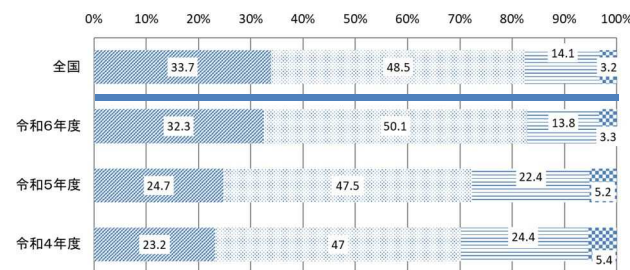


- 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

【小学校38】



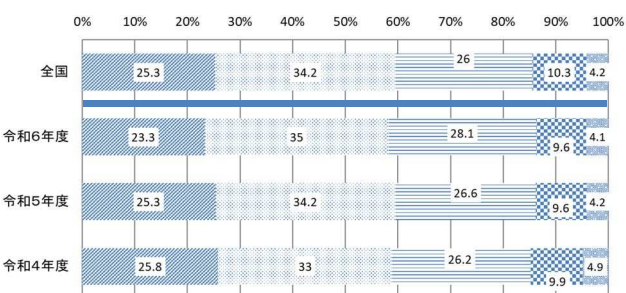
【中学校38】



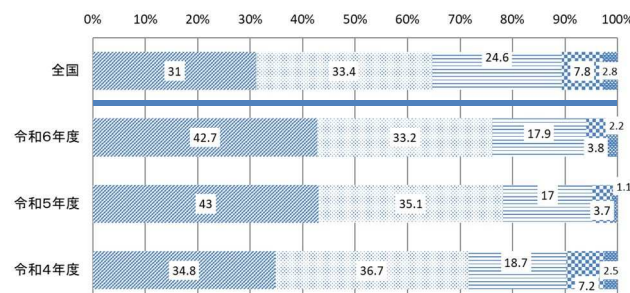
- 5年生までに受けた授業で(1、2年生のときに受けた授業で)、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。(左から、ほぼ毎日、週3回以上、週1回以上、月1回以上、月1回未満)



【小学校27】



【中学校27】



情報活用能力とは、課題解決に必要な情報を収集、整理・分析、発信するなどを適切に情報を扱う力だよ。  
 文章や図表など活用する情報は様々だけど、各教科等で育成する資質・能力と関連付けながら、子どもたちが情報技術を手段として、日々の学習や生活に活用できるようにしていこう！



四日市市の子どもたちの実態

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>「PC、タブレットなどのICT機器を活用した授業を週に3回以上行っている割合」が、中学校では75.9%となっており、全国と比較すると11.5ポイント高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生は、全国と比較して「総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」という意識が低い。</li> </ul>

新教育プログラム柱2

論理的な思考力で筋道くっきりプログラム

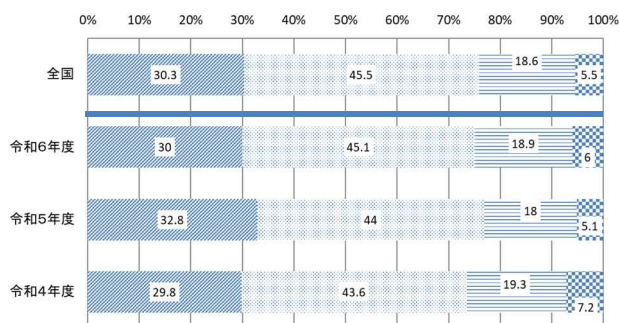


- 「情報活用能力」については、新教育プログラムの柱2において、思考スキルを意識した授業づくりを推進することで、子どもたちの「課題を解決するために必要な情報を集めたり、調べたりして、自分の考えをまとめ、説明する力を高める資質・能力」を高めていきます。

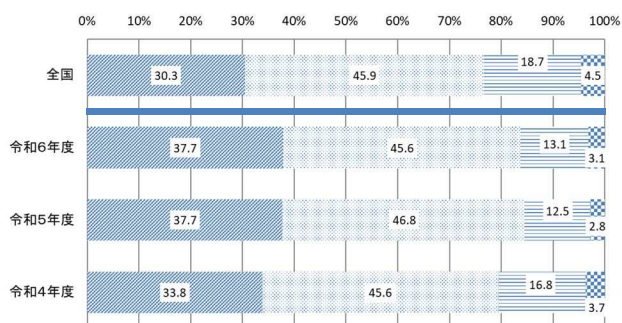
<「問題発見・解決能力」に関わって>

○ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

【小学校17】



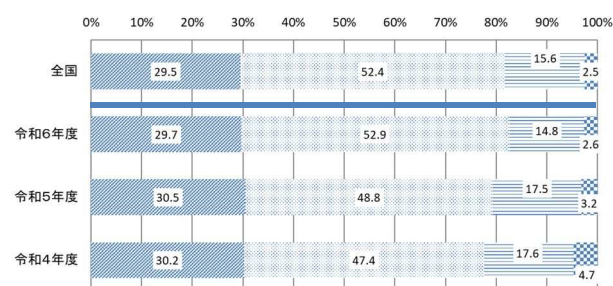
【中学校17】



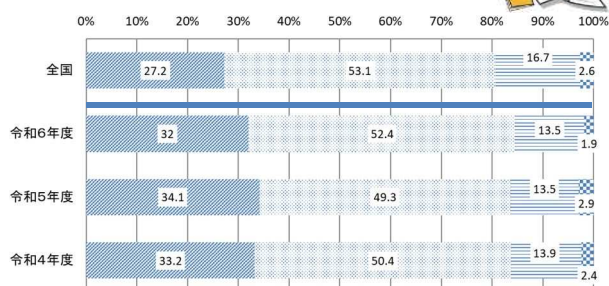
○ 5年生まで(1・2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



【小学校30】

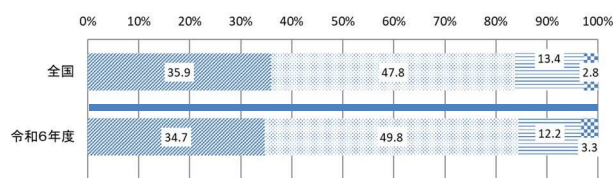


【中学校30】

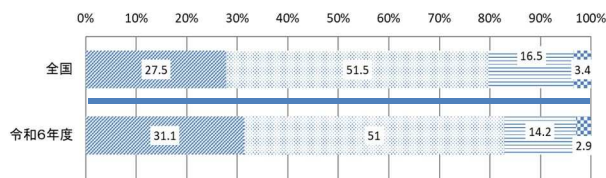


○ 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。

【小学校35】

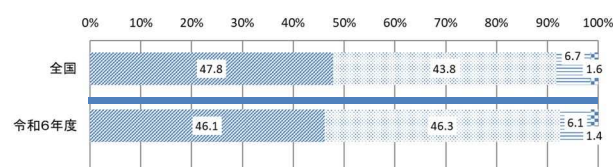


【中学校35】

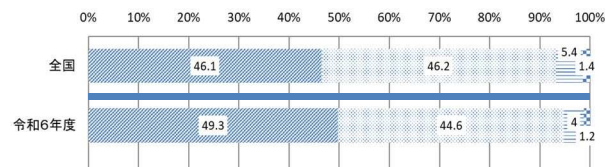


○ 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。

【小学校37】

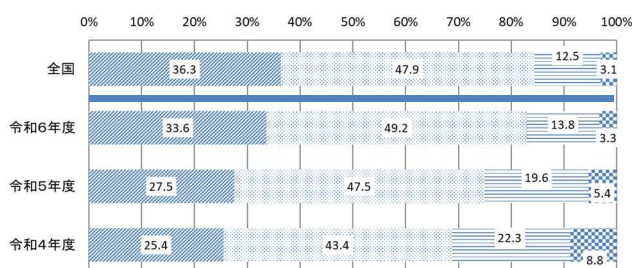


【中学校37】

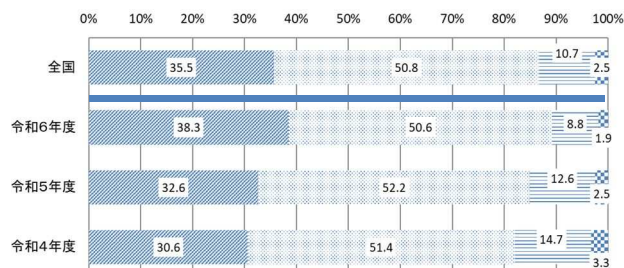


○ あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

【小学校39】



【中学校39】



## 問題発見・解決能力

## 四日市市の子どもたちの実態

### 四日市市の子どもたちの実態

#### 強み

- ・ 小中学生ともに、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の肯定的回答の割合が全国よりも高い。
- ・ 小中学生ともに、9割以上の子どもたちが「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と回答している。(小：92.4%、中：93.9%)

#### 弱み

- ・ 小学生は、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問について、全国より肯定的回答の割合が低い。

### 「四日市モデル」

#### (問題解決能力向上のための5つのプロセス)



- 小中学校ともに、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の質問では全国平均を上回っていたことは、本市が日々の授業において、「四日市モデル」(問題解決能力向上のための5つのプロセス)等を意識して、各教科等の授業の中で大切に育ててきた結果だと考えています。

問題発見・解決能力は、様々な学習の基盤となる資質・能力です。今後もすべての小中学校において、子どもたちの問題意識や友達と考えながら問題解決する場などを大切にした授業づくりを進めていきます。

### (3) 「キャリア教育」に関する質問

◇肯定的回答(上記1と2の合計)が、全国の結果を上回っている質問

<小中とも>

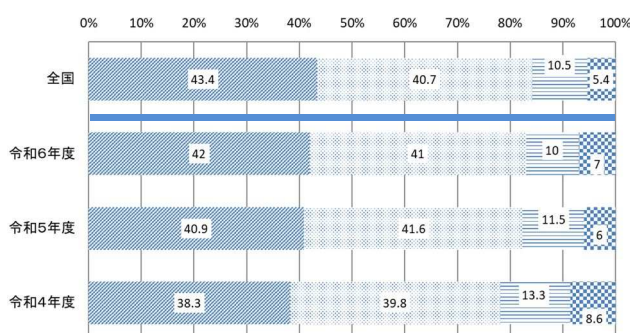
- ・ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。
- ・ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
- ・ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

<中のみ>

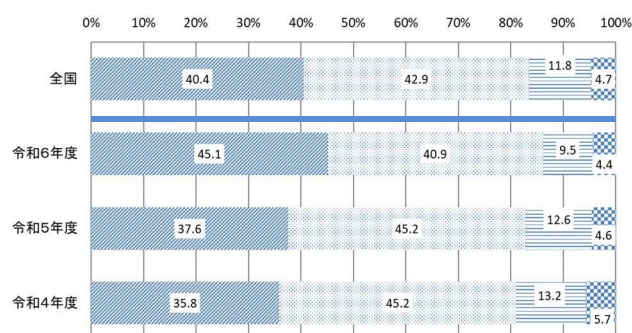
- ・ 自分には、よいところがあると思いますか。
- ・ 将来の夢や目標を持っていますか。

○ 自分には、よいところがあると思いますか。

【小学校9】



【中学校9】

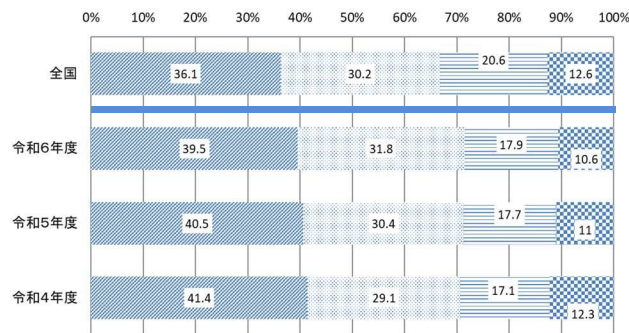


○ 将来の夢や目標を持っていますか。

【小学校11】



【中学校11】

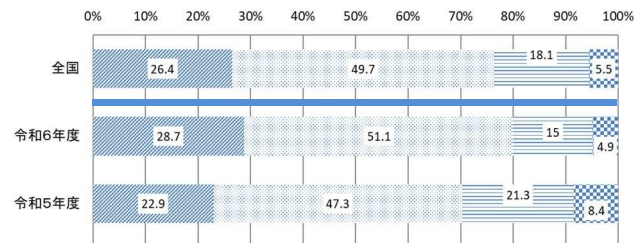


○ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

【小学校25】



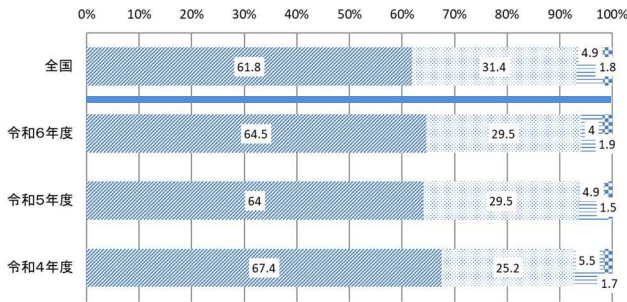
【中学校25】



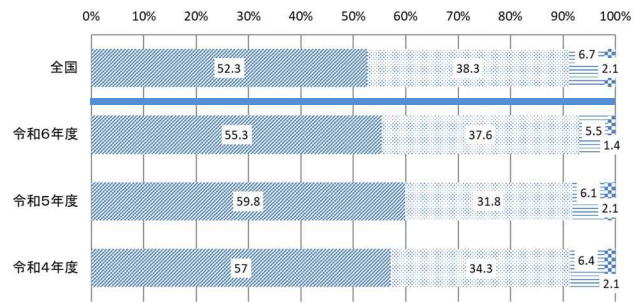
地域や社会のために何かしたいと思う割合が全国よりも高いんだね。

○ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

【小学校45】

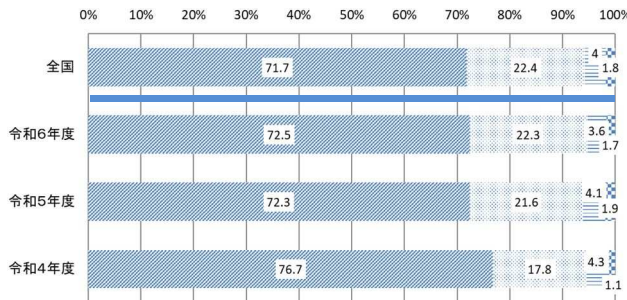


【中学校45】

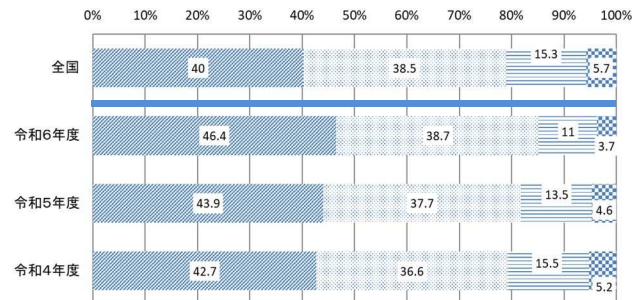


○ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

【小学校53】



【中学校53】



小中学生ともに、多くの子どもが「国語や算数・数学での学習が、将来、社会に出たときに役に立つ」という意識を持っているね。

## キャリア教育

## 四日市市の子どもたちの実態

### 四日市市の子どもたちの実態

#### 強み

- ・ 小中学生ともに「地域や社会をよくするために何かをしてみたい」という気持ちが全国よりも高い。
- ・ 小学生94%、中学生92.9%が「国語の学習は、将来、社会に出たときに役に立つ」という意識を持っている。

#### 弱み

- ・ 小学生の「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答の割合は、全国と比べると低い。

### 新教育プログラム柱5

#### 夢と志！よっかいち・輝く自分づくりプログラム



- 「キャリア教育」については、今後も新教育プログラムの柱5で取り組んでいる四日市版キャリア・パスポートの効果的な活用方法を含め、発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を推進し、子どもたちが社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現し学び続けるために、「何のために学ぶのか」という目的意識の向上を目指します。

## (4) 学校生活等の意識に関する質問

◇肯定的回答が、全国の結果を上回っている質問

<小中とも>

- ・ 人が困っているときは、進んで助けていますか。

<中のみ>

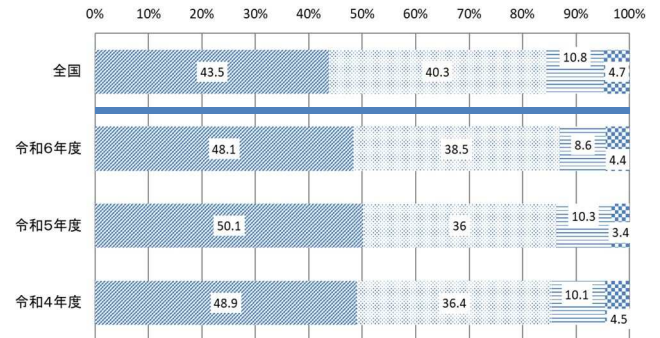
- ・ 学校に行くのは楽しいと思いますか。
- ・ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
- ・ 友達関係に満足していますか。
- ・ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

○ 学校に行くのは楽しいと思いますか。

【小学校16】

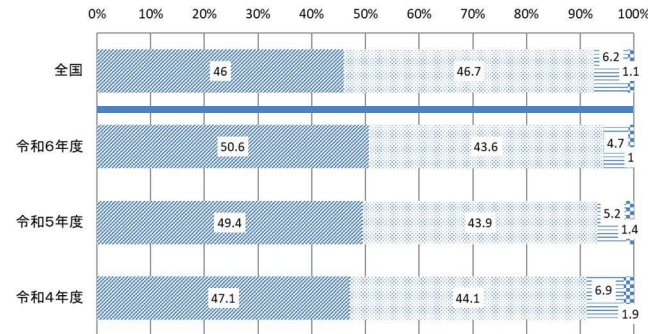


【中学校16】



○ 人が困っているときは、進んで助けていますか。

【小学校12】

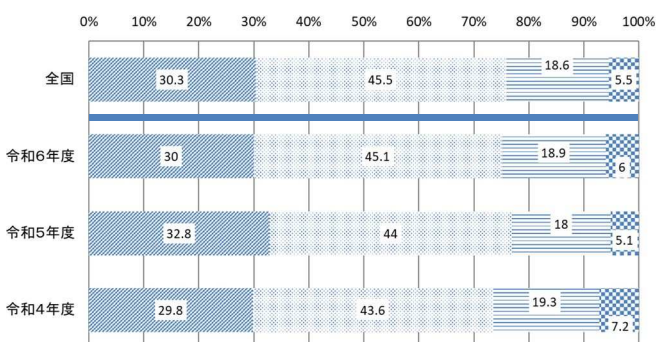


【中学校12】

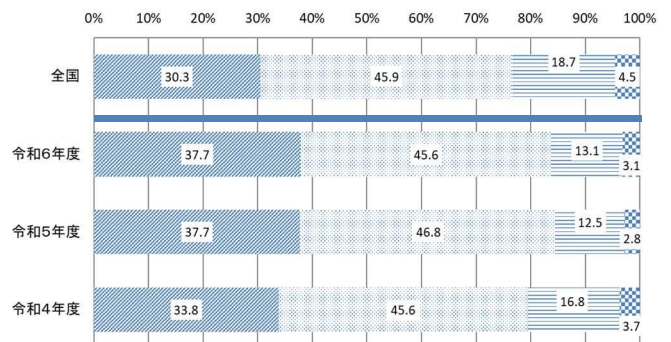


○ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

【小学校17】

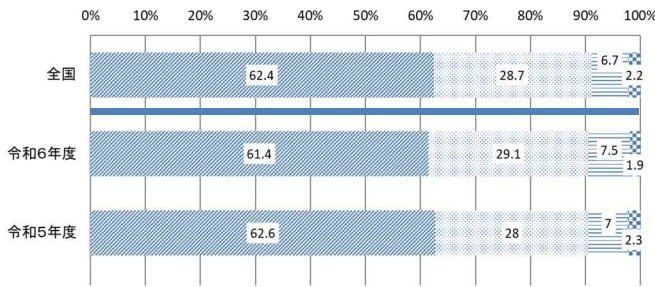


【中学校17】

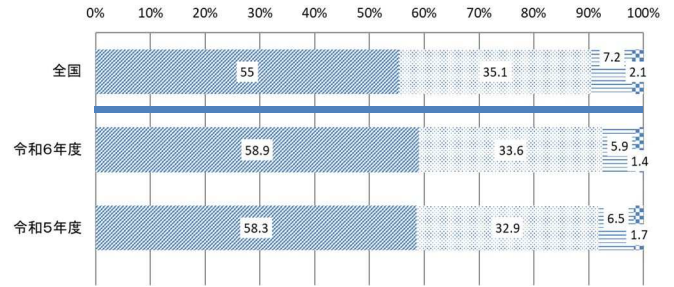


○ 友達関係に満足していますか。

【小学校18】



【中学校18】

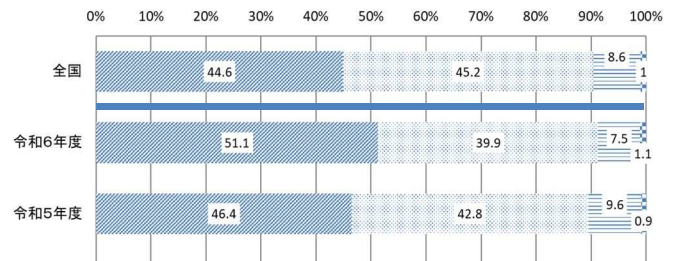


○ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

【小学校19】



【中学校19】



<考察>

○ 「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問について、小学校では肯定的回答の割合が全国平均を1.0ポイント下回り、中学校では肯定的回答の割合が全国平均を2.8ポイント上回っていました。

「学校に行くのが楽しい」と思えることは、各教科等の資質・能力を身に付けたり、社会で必要な様々な資質・能力を身に付けたり、友達と関係を深めたりするうえで、大切なことだと考えています。今後も100%を目指し、学校・家庭・地域と連携しながら取り組みを進めていきます。

○ 「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問は、小中学校ともに全国平均を上回っていました。このことから、本市の子どもたちは、相手のことを思いやる気持ちの強い子どもが多いことが考えられます。

今後も、子どもたちが互いに助け合いや思いやりのある関係づくりを築いていけるよう、自分だけでなく周りを気遣える子どもを育てていきます。

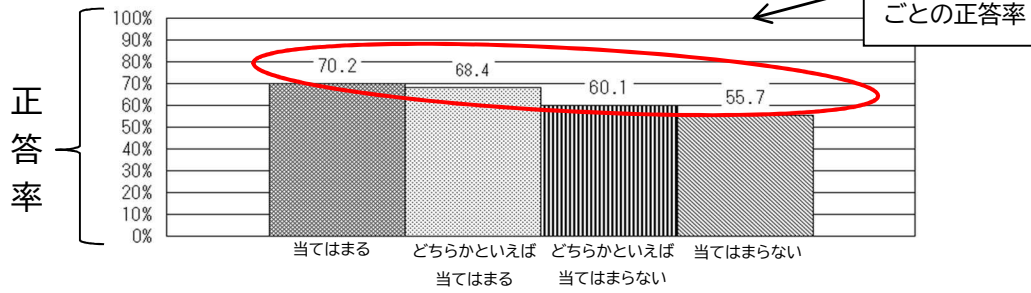
○ 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問については、小学校は全国とほぼ同等、中学校は全国平均を上回っていました。

子どもたちの今や将来を大切にする学校を目指し、子どもたちの「幸せな気持ち」を高めていけるように、例えば、自己肯定感等を高めるための取り組みを推進したり、子どもたち自身が目標を決め、それを達成することが得られる達成感や充実感を味わわせる取り組みを設定したりしていきたいと考えています。

## (5) 生活習慣と学力の関連

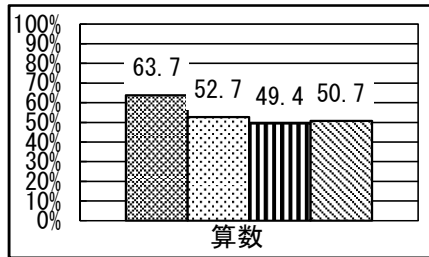
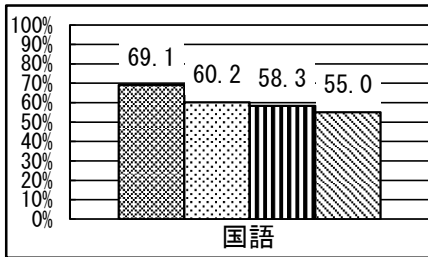
### 【グラフの見方】

(例)毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



○ 朝食を毎日食べていますか。

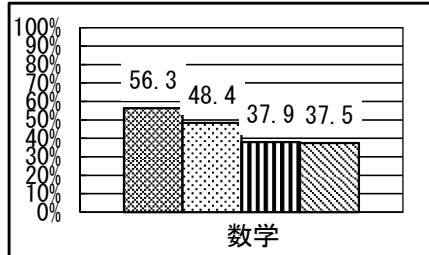
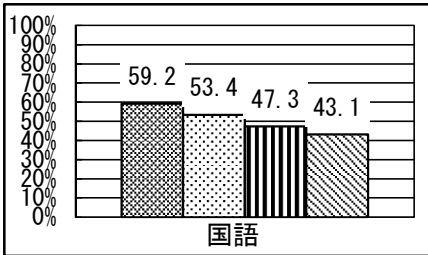
小学校



朝食をきちんと摂ることはとても大切だね。

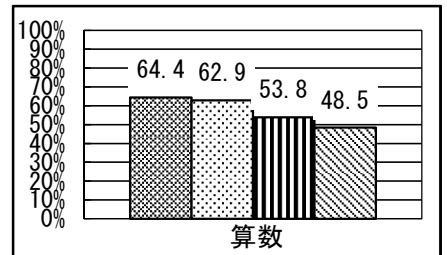
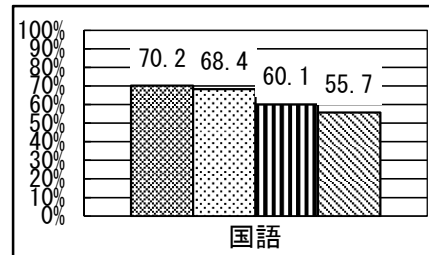


中学校



○ 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

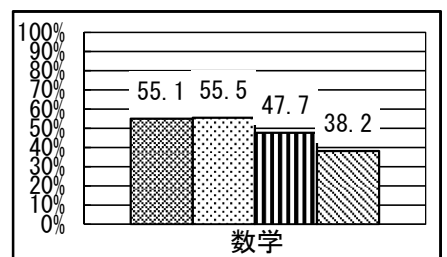
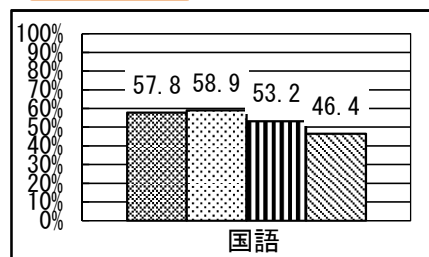
小学校



睡眠の時間を保障し、正しい生活リズムで過ごすことが大切だね。

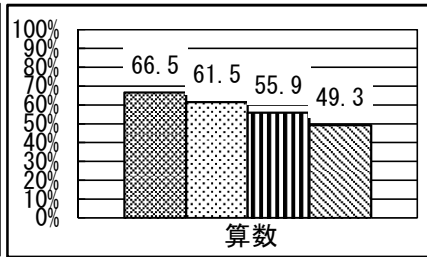
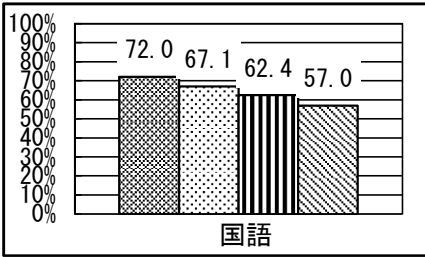


中学校



- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

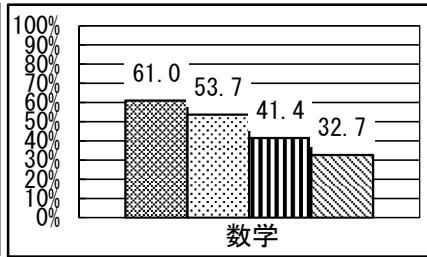
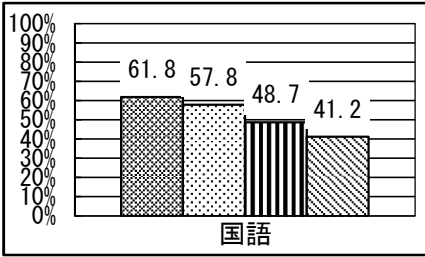
小学校



自分で学び方を考えたり、工夫したりできることは学力の向上につながるんだね。

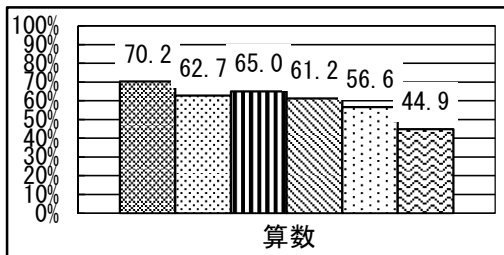
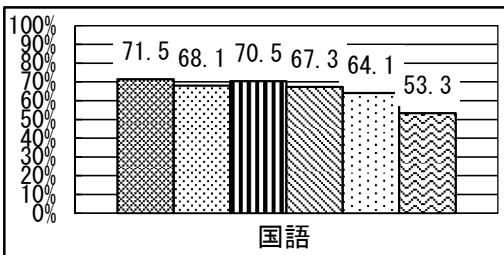


中学校

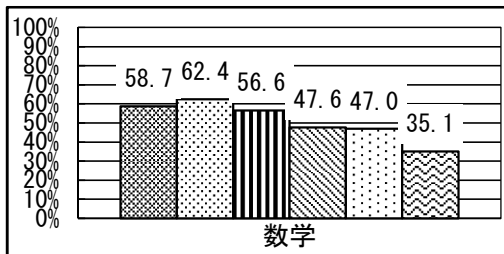
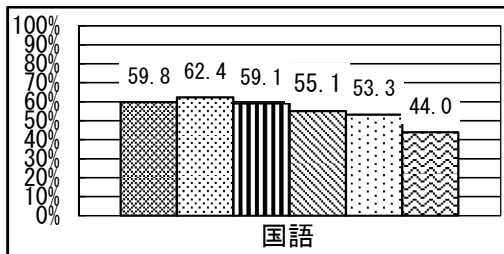


- 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)。

小学校



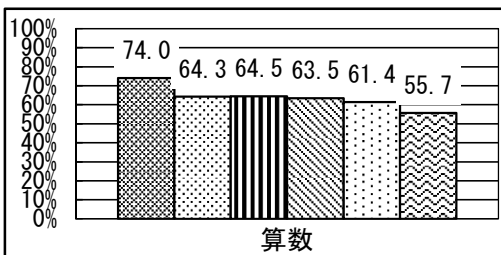
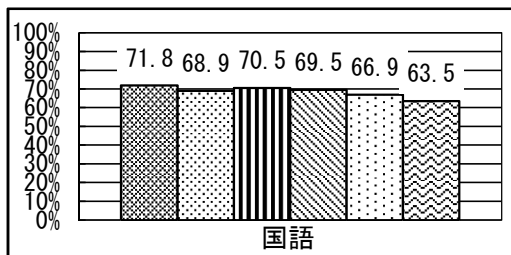
中学校



左から 3時間以上 2時間以上、3時間より少ない 1時間以上、2時間より少ない 30分以上、1時間より少ない 30分より少ない 全くしない

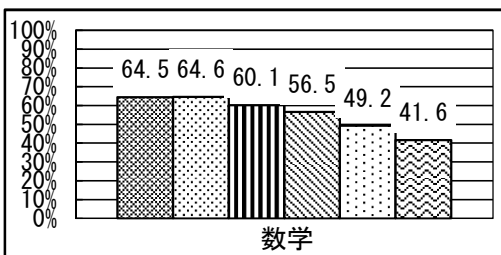
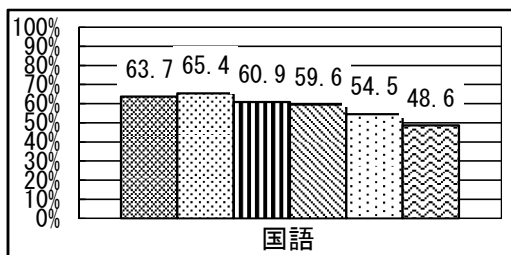
- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)。

### 小学校



自分にあった学習時間を見つけていくことが大切だね。

### 中学校



左から 4時間以上 3時間以上、4時間より少ない 2時間以上、3時間より少ない 1時間以上、2時間より少ない 1時間より少ない 全くしない

### <考察>

- 以上の結果から、生活習慣に関わる各質問について、学力との相関関係は高いことが分かります。今後も、睡眠や朝食、家庭学習の習慣化など、基本的な生活習慣を整えていくように指導することが大切です。

## 5 学校質問紙の結果について

### (1) 全国学力・学習状況調査問題の活用

すべての質問において、小中学校ともに肯定的回答が全国の割合よりも高くなっており、各学校で自校の結果を分析し、学校全体で教育活動を改善するために活用したり、指導計画等へ反映させたりしていることがわかります。

また、自校の結果を保護者や地域に対して公表し、今後の改善方針を明らかにし、取り組んでいる姿勢が見られます。

※肯定的な回答をした割合

調査項目	小		中	
	本市	全国	本市	全国
令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	100	96.8	100	94.1
全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映をどの程度行っていますか	97.3	92.8	100	89.3
令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)	97.3	89.5	100	83.2

### (2) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する

#### 取組状況

小中学校のほとんどの質問において、全国平均と比較して高い割合を示していることがわかります。

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」「授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」の質問では、全国平均を小学校は少し下回り、中学校は上回るという結果でした。また、「授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか」の質問では、小学校は全国平均を上回り、中学校は下回るという結果でした。ここから、相手意識をもって伝えるための工夫や、主体的に学習計画を立てさせることに課題があることがわかります。

一方、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、互いに協力しながら課題の解決に取り組むこと」「児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をすること」「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をすること」「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすこと

ができるような機会を設けること」等は、小中学校ともに全国平均を大きく上回っており、「四日市モデル」(問題解決能力向上のための5つのプロセス)等を学校全体で意識して、子どもの個性を生かした多様な人々と協働して問題を解決していく授業に取り組んでいることがわかります。

調査項目	小		中	
	本市	全国	本市	全国
調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	78.4	88.2	100	88.4
調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	72.9	78.3	86.4	82.7
調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	89.2	87.2	95.4	89.7
調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか	97.3	93.6	100	96.1
調査対象学年の児童は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか	67.6	61.2	45.4	55.3
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	94.6	90.3	86.4	86.3
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	94.6	94.5	95.5	94.0
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	97.3	95.8	100	96.3
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	94.6	89.3	90.9	85.1
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	91.9	87.4	100	86.6
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	94.6	85.7	81.8	78.6

### (3) 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳の指導方法

すべての質問において、小中学校ともに全国平均同等もしくは上回っております。総合的な学習の時間では、課題設定からまとめ・表現に至る過程において、子どもたちの問いや思いを大切にした取り組みをしている学校が多くあることが分かりました。また、学級活動や道徳の授業においては、子どもたちの思いや願いを大切にした授業が行われており、それらの思いや願いから考えを伝えたり、話し合ったりする活動を大切にしていることが分かりました。

調査項目	小		中	
	本市	全国	本市	全国
調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	91.9	91.9	95.4	90.9
調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	97.3	94.3	100	94.0
調査対象学年の児童に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか	94.6	92.6	95.5	92.4
調査対象学年の児童に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか	100	96.0	100	96.3

### (4) 小学校教育と中学校教育の連携

小中学校ともに全国平均を大きく上回っております。学びの一体化として、校区の特色や子どもたちの実態の共有や共通のテーマに基づく公開授業を行ったり、指導体制の一体化を図ったりしています。就学前から小中学校が連携を密にし、一貫性、連続性のある指導を行い、学びの一体化の取組が推進されていることがわかります。

調査項目	小		中	
	本市	全国	本市	全国
前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	91.9	64.0	95.4	69.0

## (5) ICTの活用

小中学校の多くの質問において、全国平均を上回っています。今後も、すべての教科等の授業において、つきたい力を付けるための効果的なICTの活用方法について啓発していきます。また、児童生徒に対しては、自らの学習を支えるツールとして活用できる力だけでなく、学習に必要なものを選択する力を育てていきます。

調査項目	小		中	
	本市	全国	本市	全国
前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	100	92.9	100	91.9
教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	97.3	95.1	100	90.8
コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか	89.1	88.9	86.4	84.6
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか	97.3	93.2	100	90.8
調査対象学年の生徒が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	75.7	76.6	77.3	70.4
調査対象学年の生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	56.7	55.1	72.8	51.8
教職員と調査対象学年の生徒がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	64.8	59.7	68.2	57.4
調査対象学年の生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	45.9	45.0	50.0	41.1
調査対象学年の生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	56.7	52.8	50.0	42.2
前年度に、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、生徒が学校外の施設(他の学校や社会教育施設、民間企業等)にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか	5.4	6.4	9.1	5.0
教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか	91.9	71.7	100	72.9

## (6) 家庭学習

小中学校の全ての質問において、全国平均を上回っています。特に、タブレット端末を活用した家庭学習については、全国よりも50%以上上回っています。今後も、家庭学習について校内の教職員で共通理解を図るとともに、家庭での学習方法について伝えていく必要があります。さらに、家庭学習と授業の課題を関連付けたり、授業改善につなげたりしていきます。

調査項目	小		中	
	本市	全国	本市	全国
生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか	86.5	36.2	100	45.5
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	100	96.1	95.5	91.9
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	97.3	89.7	95.4	84.0
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	91.8	87.8	90.9	82.8

## 6 今後の取組の重点

### 1 全国学力・学習状況調査の活用等

#### (1) 学力調査に関わって

- 全教職員が問題を解くことで、出題のねらい、今後求められる力等を把握するとともに、調査実施後、児童・生徒の解答類型から、つまずきを把握・分析して指導の重点を明確にする。
- 全国の結果との比較や、経年での変化を把握することで、学校としての強み・弱みを明らかにし、全校及び学年で、学力向上に向けた取り組みを進める。

#### (2) 学習状況調査に関わって

- 学習状況調査の結果と学校の取り組みと照らし合わせることで、指導の効果を検討・改善する。
- 学校質問紙を併せて分析することで、児童・生徒と指導者の意識のズレを把握し、指導改善につなげる。

#### (3) 「学びの一体化」と関わって

- 本調査で得られた強み・弱みについて、中学校区で共通理解を図り、発達段階に応じた指導方法等の連携を図る。
- 家庭学習や補充学習について、従来の方法を見直すなど、さらなる改善に取り組む。
- 保護者への働きかけの充実を図る。
  - ・ 家庭学習の定着、自主学習ノートによる定着、シラバスやHPを活用した家庭への啓発 等
  - ・ 補充学習の充実、長期休業及び放課後等の学習、「全体」と「個別」の補充学習の検討 等
  - ・ 課題について調べ自分の考えをまとめるなど、知識・技能の活用を目指す宿題 等

### 2 「学習の基盤となる資質・能力」の育成

各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）について、教科横断的な学習を充実させることで、その資質・能力の涵養を図る。

言語能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言葉の働きや役割に関する理解、言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け、言葉の使い方に関する理解と使い分け、言語文化に関する理解等</li> <li>○ 情報を理解したり、文章や発話により表現したりするための力</li> <li>○ 言葉を通じて、社会や文化を創造しようとする態度、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする態度、集団としての考えを発展・深化させようとする態度、心を豊かにしようとする態度等</li> </ul>
情報活用能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習活動において必要に応じて情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりすることができる力</li> <li>○ 情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等</li> </ul>
問題発見・解決能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教科等における問題の発見・解決に必要な力、各教科等で身に付けた力を統合的に活用する力等</li> </ul>

「学習の基盤となる資質・能力」の育成については、各学校の教育課程全体を見渡し、学年や教科等で連携を図りながら、計画的・系統的に取り組む。

### 3 問題解決的な授業づくりに向けた授業改善

問題解決的な授業をめざしていく中で、子どもたち自身が授業の中でどのような「力」を身に付けるのかを理解し、そのために必要な学習内容や方法を決定し、学習状況等を振り返りながら、必要に応じて改善を行い、学び続けていく授業づくりをめざしていく。

#### 【授業づくりのポイント】

- ポイント① 単元や題材の構成や授業展開の中で「つけたい力」を明確にする。
- ポイント② 授業の中で表出する子どもたちの姿をイメージし、「つけたい力」をつけさせるためのしかけを考える。
- ポイント③ 振り返りを大切にするとともに、次の学習の指導改善に役立てる。

#### 【問題解決能力の育成にむけて】

##### ○ 四日市モデルを活用した授業改善

##### (1) 第1プロセス「問題の理解」

- 学習課題等の設定により、児童生徒の問題意識や解決しようとする意欲を喚起させる。

【学習課題等の提示】

- ・身に迫った切実感のある課題を提示するなど、児童生徒が考えざるを得ない状況をつくる。
- ・「～を活用して」など知識や技能の活用や、「ペアで～しよう」など協働的な学びを促す。
- ・「なぜ？」と根拠や原因を考えさせたり、「～を説明しよう」などアウトプットを意識させたりする。
- ・実生活、実社会などにつながる学習課題や問題等を工夫する。

- 学習課題等と合わせた「授業のゴール」を子どもの姿として設定する。【評価規準の明確化】

##### (2) 第2プロセス「問題の特徴づけと表現」

- 問題意識等を大切にしながら、解決するための糸口がつかめるように支援する。【問題解決の見通し】
- 見通しを持たせる場面において、ICT機器を効果的に活用する。【指導者のICT機器の活用】

##### (3) 第3プロセス「問題の解決」

- ねらいに合わせた主活動（言語活動等）を設定する。【主活動の時間確保と言語活動の充実】
- 児童生徒の問題意識等に合わせて、自力解決をしたり、互いの考えを交流したりすることができるようにする。【個の問題意識に合わせた解決（学び合いを含む）】
- 児童生徒のつまずきとそれに合わせた支援を準備する。【つまずきへの適切な支援】
- 児童生徒がICT機器や思考ツール等を活用できるようにする。【児童生徒のICT機器等の活用】

##### (4) 第4プロセス「解決方法の共有」

- 児童生徒が自分の考えを説明したり、資料等を提示して根拠を示したりするような学習活動の充実を図る。【アウトプットする場の設定】

##### (5) 第5プロセス「問題の熟考と発展」

- 授業のねらいや学習活動を踏まえ、児童生徒自身が「何を学んだのか」、「何ができるようになったのか」を実感できる振り返りを行う。【学習の振り返り】
- 他の単元へのつながりや教科横断的な視点、さらに日常生活への活用を意識する。

【実社会・実生活につながる汎用的能力の視点】

### 【読解力の育成にむけて】

子どもたちが、教科書の内容を正しく読み取り、理解することを根底に、新聞や取扱説明書、身の回りの資料等論理的に書かれた様々な文章から、必要な情報を捉え、表現することをめざしていく。

読解力を育むためのポイントである「読解力を育む『20の観点』」を子どもたちが意識することで、「新聞」「解説書」「パンフレット」「教科書」などの様々なテキストを読む力を育成し、表現活動へつなげていく。

### 【論理的思考力の育成にむけて】

子どもたちが見出した「問い」や「気づき」を、学習過程の中で自ら解決していけるようにしていく。そのために必要なことの1つとして、「考える技法（思考スキル）」を身に付けさせる。授業の中でどのような思考スキルを使えば、「問い」や「気づき」を解決できるのかを子どもたちが選択し、課題・問題を解決できるようにしていく。

## 4 非認知能力の育成

認知能力（点数化することができる力）の育成にもつながる「非認知能力」（点数化が難しい力）について、全ての教育活動を通じて涵養を図る。非認知能力は、学びに向かう力、人間性等の育成に欠かせない力であり、キャリア教育とも関連させて、自分が意識して伸ばす能力を見つけさせ、意図的・計画的・系統的に育成していく。

全国学力・学習状況調査の結果から

# 読解力・論理的思考力向上↑

～ 授業づくり3つのPOINT ～

全国学力・学習状況調査の結果から見てきた子どもの姿

児童生徒質問紙と学力調査のクロス集計より、以下の質問項目で肯定的に回答した児童生徒は、国語、算数・数学の正答率が高い傾向にあります。

- 国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解している。 **読む力**
- 学級の児童生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりしている。 **話す・聞く力**
- 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。 **伝える力**

日々の授業で培った読解力や論理的思考力が、問題解決に生かされているね

学力向上に向けて必要な力

読解力<sup>1</sup>

論理的思考力<sup>2</sup>

「読解力」「論理的思考力」を向上させるための授業づくり

before

このような授業していませんか？

- 子どもが一方向的に与えられた情報だけで考えている。
- 子どもがどのように考え、説明してよいかわからず、あきらめている。

- 今日は問題文と図を関連付けて読んで、内容を理解するぞ！
- 2つのことを比較して、みんなに説明してみようかな！



このような授業へ！

after

- 本時でつけたい力を教師だけでなく子どもも意識して学ぶ。
- 子どもが資料から必要な情報を自ら適切に選択できる。
- 子どもが自分で考えることを通して、情報を処理し、筋道立てて表現することができる。



どう考えて、説明したらいいのかな…

抽象

「くなく」ですね。話し方を覚えますね。月には、月、クイズなどの読書イベントをします。クイズに参加しました。今まで、いろいろな分野の本を読みました。

よく分かりました。おもしろそうですね。

具体

そうですね。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、クイズを出題してくれました。読書に挑戦したクイズが当たったカードも参加することで、科学の本に興味をもちました。

国語、算数・数学の授業を例に、「読解力」「論理的思考力」を向上させるための授業づくりにおいて大切な3つのPOINTをまとめました。日々の授業改善にご活用ください。

- 1 文章を正確に理解し、相手に適切に伝えることができる力
- 2 根拠に基づいて論理的に考え、簡潔・明瞭・的確に表現することができる力



# 読解力・論理的思考力向上↑

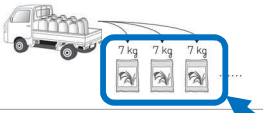
## ～算数・数学編～

### POINT1

場面・図等と式を関係づけさせよう！

式の中に出てくる数は、何かということを考えさせ、式と図を関係付けて考えさせることが大切です！

あやの  
1人に7kgずつ配る場合を考えます。  
 $350 \div 7 = 50$   
50人に配ることができます。

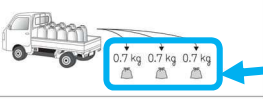


350 kgの米を1人に7kgずつ配ると、1人に0.7kgずつ配る場合を比べると、どのようなことがいえますか。  
下の1と2と、3と4の中から、それぞれ選んで、その番号を書きましょう。

350 kgの米を1人に7kgずつ配ると、50人に配ることができます。  
1人に0.7kgずつ配るとき、配ることができる人数は、

50人より  1 多い  2 少ない  3 大きい  4 小さい  です。

はやて  
1人に0.7kgずつ配る場合を考えます。  
何人に配ることができるでしょうか。



$350 \div 7 = 50$  です。  
 $350 \div 0.7$  の商は、50より  3 大きい  4 小さい  です。

1人に0.7kg分けるということだから、1人に7kg分けるときよりもたくさんの人に配ることができます。

【思考スキル】  
関係づける

0.7kgは、7kgの10分の1だから、1つ分が0.7になると、もっとたくさん多くなると思います。

### POINT2

データを比べさせたり、整理させたりしよう！

データから読み取るときに、複数のデータを比べたり、整理させたりすることが大切です！

(3) こうたさんは、1970年代から2010年代について、〇市の桜の開花日の月を調べました。すると、1970年代以降は、開花日の月が3月と4月のどちらかであることがわかりました。  
そこで、開花日の月について、各年代の3月の回数と4月の回数を、下のよう折れ線グラフに表しました。

こうたさんたちは、左の折れ線グラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。

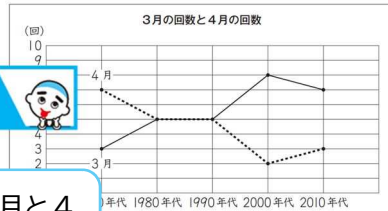
こうた 1970年代は、3月の回数より4月の回数のほうが4回多いですね。

ひなの 3月の回数と4月の回数が同じ年代がありますね。

しおり 3月の回数と4月の回数のちがいが大きい年代がありますね。

左の折れ線グラフで、3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代はいつですか。また、その年代について、3月の回数と4月の回数のちがいは何回ですか。

ちがいが最も大きい年代と、その年代について、3月の回数と4月の回数が何回ちがうかを、言葉と数を使って書きましょう。



3月の回数と4月の回数を比べると、4月の方が多いことに気付きました。

2000年代は3月と4月の違いが大きいね！

【思考スキル】  
比較する

### POINT3

パターンや傾向から結論を導かそう！

(2) 図1のような円柱があります。



図1

図1の円柱を、図2のように切り開くと、展開図ができます。



図2

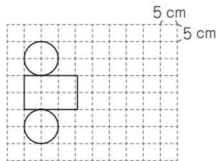
図1の円柱の展開図を、側面の形を長方形にして、工作用紙にかきます。このとき、長方形の横の長さは、円柱の底面の円周の長さと同じになります。

【思考スキル】  
推論する

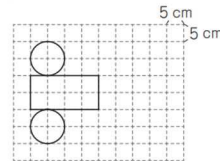
図1の円柱の展開図はどれですか。

下の1から4までの中から、最もふさわしいものを1つ選んで、その番号を書きましょう。

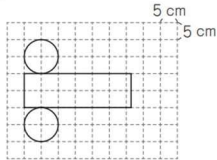
1



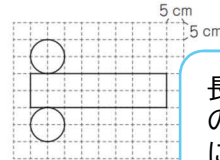
2



3



4



実際に体験をしたり、データから傾向を読み取りさせることが大切です！

2だと長方形の横の長さが短すぎるし、4だと長すぎるから・・・。

長方形の横の長さは、円柱の底面の円周の長さと同じになるはずだから・・・。

# 7(1)今後の授業改善のポイントについて（小学校国語）

## 国語の問題

目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること

### 設問の趣旨

話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみること。



①主語と述語

#### 【大設問1】 2 - (1)

和田さんは、村木さんの発言④を受けて、発言③の話方を発言⑤のように変えました。

和田さんが話し方を変えた理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

③ メールありがとうございました。図書委員会のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしょうかいて、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。

④ せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのかが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤ 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。

深緑小学校 村木さん      海風小学校 和田さん

② はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、とても楽しみにしていました。



① はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお祈いします。

和田さんが、村木さんの発言を受け、言葉の順序に気を付けて、短い文に区切った話し方に変えたことを捉えられているかを問う問題です。

もしも授業で行ったら...

② はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、とても楽しみにしていました。



① はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお祈いします。

和田さんと村木さんは各学校の取組をオンラインで紹介し合っています。和田さんの話す内容が、**村木さんにより伝わるよう表現の工夫**をして、文章を書き直してみましょう。



③ メールありがとうございました。図書委員会のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしょうかいて、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。



一文が長いので、**必要な情報に絞った**方が伝わりやすいそう。

【思考スキル】  
要約する



必要な情報

月1回

読書イベント

クイズ

③ メールありがとうございました。図書委員会のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしょうかいて、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。



誰が何をしているのかわかりやすくなるよう、**主語と述語**も意識して短文に書き換えてみよう。

【思考スキル】  
順序立てる



図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしています。

私も、クイズに参加しました。私は今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。

子どもが自ら学習を進めていくためのしかけ

下級生にあなたの委員会の取組を紹介しましょう。あなたはどんな表現の工夫をしますか。

学んだことを生かして、まずは**主語と述語**を入れ、**短い文**で相手に紹介しよう。

実際に取り組んだ内容と、それを行って思ったことや考えたことも入れてみたい。

設問の正答率  
国：75.9  
市：73.3

# 7(2)今後の授業改善のポイントについて (小学校算数)

## 算数の問題

図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し立体図形について考察すること

### 設問の趣旨

直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみること。



⑫考えと理由  
(因果関係)

10 cm

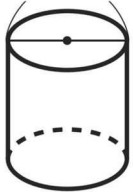
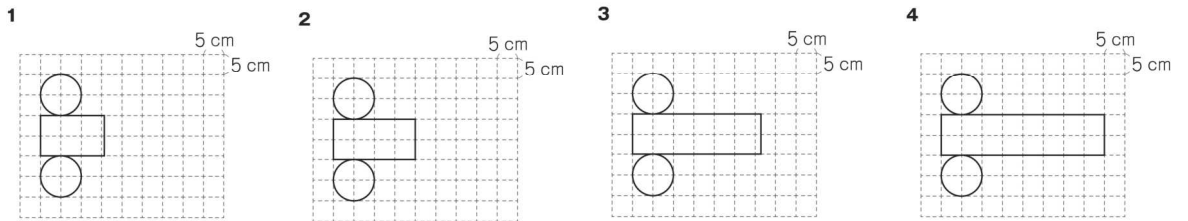


図 1

図1の円柱の展開図はどれですか。

下の 1 から 4 までの中から、最もふさわしいものを1つ選んで、その番号を書きましょう。



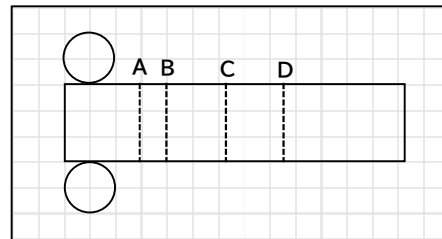
### もしも授業で行ったら...



底面の円の直径が 10 cm の円柱を作ろうと思って、右のような展開図を作ってきました。

円柱を作るためには、A~D のどこで、長方形を切ればよいですか。

円柱の展開図をかく場面において、底面となる円の直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかを問う問題だね。



設問の正答率  
国：71.3  
市：68.7

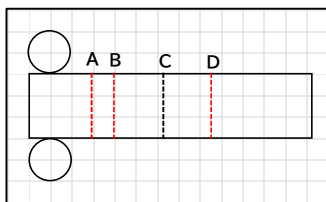


今まで学習してきた角柱の展開図と関連付けて考えることが大切だね。

【思考スキル】  
関連づける

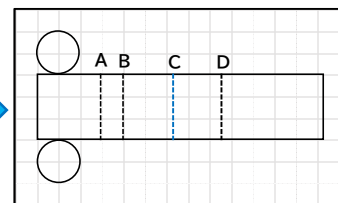


側面の長方形の長さが長すぎるから、どこかで切らないとできない



A とか B だと、側面が足りないし、D だと側面が重なってしまうと思います。

【思考スキル】  
比較する



円柱を作るには、側面の長方形の横の長さと底面の円周の長さが同じでないといけないと思います。

### 子どもが自ら学習を進めていくためのしかけ



本当に円柱ができるかどうか作ってみましょう。

C で切ってみたら、きれいに円柱を作ることができたよ!



違う大きさの円柱を作りたいな。

# 7(3) 今後の授業改善のポイントについて (中学校国語)

## 国語の問題

## 話し合いの際に大切なことを意識する

### 設問の趣旨

話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる

**読解力**  
③ 要旨を捉える

条件1 フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからのように本を選びたいかを具体的に書くこと。  
条件2 「話し合いの【部】」の誰の発言と結びつくのかが分かるように書くこと。

設問の正答率  
国: 44.7  
市: 42.1

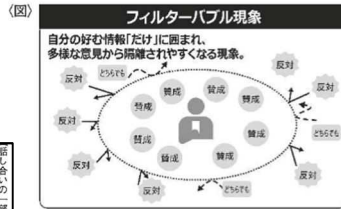
話し合いの「部」

山岡さん: 皆さんは、「フィルターバブル現象の資料」にあるような経験がありますか。

今井さん: 私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、興味にしている程度に合う本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

山岡さん: (解説)の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受けやすくなる可能性があります。では、話題を「フィルターバブル現象と本の選び方」にして話し合ってみませんか。

今井さん: 身近なテーマだと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、皆さんはどうですか。



インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機に記憶され、解析されることで、その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まない判断された情報は、はじまってしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなる状態のことを「フィルターバブル現象」という。

例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する優先的に表示されるようになる。

〈大設問1〉四  
「話し合いの【部】」の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

フィルターバブル現象の資料1

もしも授業で行ったら...

山岡さんの最後の発言に続けて、あなたの考えを話しましょう。その時に上の条件に合わせて話します。



フィルターバブルのよさもあるけど、自分は、気を付けないといけないことがあると思う。だれの考えと近いだろう...



そういえば、インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがありますよ。そこで紹介されている本は、本を探している側の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響は受けにくいのではないのでしょうか。



友だちの意見を聞くときは、メモを取りながら聞くと、後で考えを整理しやすくなります。誰の意見か、話の要旨は何か等、必要な情報を短い言葉でまとめましょう。分かりにくいところは、質問して確認するのもいいですね。



山岡さんの発言にあった、様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページを利用してみたいと思います。自分とは異なる価値観に意識して触れ、多様な意見に触れにくい状態に陥らないようにすることが大切だと思います。

【思考スキル】  
比較する



フィルターバブルのよさと注意点、それぞれを使って本を選んでいきたいな。



私は、図書館や書店で本を選んでます。読みたい本を見付けるのには時間がかかりますが、本棚を眺めていると、思いがけない本との出会いがあって興味が広がると感じています。



今井さんが言うように、フィルターバブルには好みに合った本を選んで示してくれるという便利な面もあるし、藤田さんが言うように、それ以外の本に出会いにくくなることもあるので、本を選ぶときには、インターネットと図書館などを使い分けたいと思います。

【思考スキル】  
多面的に見る



話し合いでは「話題や展開を捉えながら、相手の意見の要旨を捉えること」と「他者の発言と結び付けて、自分の考えをまとめること」が大切です。

グループ



みんなの意見を表に整理していこうかな。

賛成	反対
<ul style="list-style-type: none"> <li>検索しなくてもおすすめの本が出てくるのは便利。</li> <li>本屋さんで本を選ぶのは、確かに楽しい。</li> <li>他の本情報が入ってこないのは、確かに困る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットだけで本を選ぶのは少し不安。</li> <li>すべてが正しいわけではない。</li> </ul>

たくさんの情報を整理するときは、表みたいなのがあると便利だな。これから、いろんな場面で使ってみようかな。

子どもが自ら学習を進めていくためのしかけ



考え方を整理するのに、思考ツールを活用してみましょう。



# 7(4)今後の授業改善のポイントについて（中学校数学）

## 数学の問題

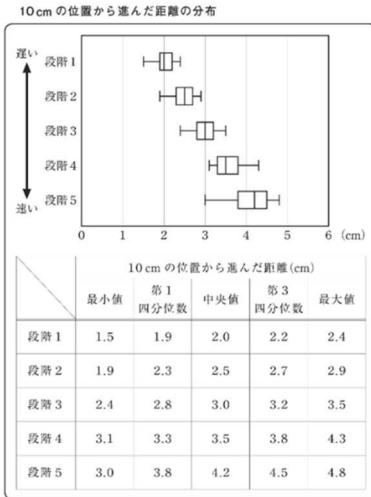
## 事象を数学的に解釈し、その根拠を数学的な表現を用いて説明する

### 設問の趣旨

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみること。(2)

7

図1



咲希さんは、車型ロボットの速さを変えたときに、10 cm の位置から進んだ距離がどうなるか調べることにしました。そこで、速さを段階1から段階5まで変えて、10 cm の位置から進んだ距離をそれぞれ20回ずつ調べ、データを集めました。そして、データの分布の傾向を比較するために箱ひげ図に表しました。



10 cm の位置から進んだ距離の分布から、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、10 cm の位置から進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明します。下の説明を完成しなさい。

説明

したがって、速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある。



⑮主張と根拠の関係



車型ロボットの速さを変えたとき、10 cm の位置から進んだ距離は図1のような結果になりました。箱ひげ図や表からどのような傾向が読み取れますか。データを比較して、説明してみましょう。

もしも、授業で行ったら…

たくさんのデータがあります。根拠として使えるデータを選んで説明してみましょう。

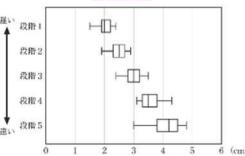
【思考スキル】  
変化をとらえる



どの値を使って比較するのかな…箱ひげ図と表では、どちらを使って分析したほうが進んだ距離を比較しやすいのかな。



箱ひげ図では5つのデータが並べられているから変化の様子が見やすく、比較もしやすいね。実験から求められた正確な値は表から読み取れるね。



第1四分位数と第3四分位数に着目すると、だんだんと大きくなっていることが表から読み取れるよ。そのことを箱ひげ図でみると箱がだんだんと右側にずれていっているね。



【思考スキル】  
理由づける



根拠をもとに筋道立てて説明する



自分の考えをもとに、他者と協働的に問題を解決したり、自ら振り返ったりして、理由を記述したり、伝え合ったりすることが大切だね。



速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっているの、速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にあると思います。

子どもが自ら学習を進めていくためのしかけ

条件を変えた場合について分析する

	設定した位置から進んだ距離 (cm)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
10 cm	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
100 cm	1.5	1.7	1.9	2.0	2.2
200 cm	1.6	1.8	1.9	2.1	2.2

速さを固定して障害物からの距離の設定を変えたとき、進んだ距離はどうなるのかな。



箱ひげ図をかくて分析してみようかな。

設問の正答率  
国：25.9  
市：27.5

## 8 参考資料

○ 国立教育政策研究所

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

- ・ 令和6年度全国学力・学習状況調査 解説資料
- ・ 令和6年度全国学力・学習状況調査 報告書
- ・ 授業アイデア例

○ 文部科学省

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1384661.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)

- ・ 小中学校学習指導要領、解説
- ・ 小中学校学習指導要領等の改訂のポイント
- ・ 社会に開かれた教育課程
- ・ 育成すべき資質・能力の三つの柱

[https://www.mext.go.jp/content/20210329-mxt\\_syoto02-000012321\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210329-mxt_syoto02-000012321_1.pdf)

- ・ 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

○ 内閣府等

[https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/index.html](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html)

- ・ Society 5.0

○ 外務省等

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

- ・ SDGs 関係資料

○ 三重県教育ビジョン(三重県／三重県教育委員会)

○ 小・中学校教育指導方針～生きる力 共に生きる力をはぐくむ教育～(四日市市教育委員会)

○ 問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック3(四日市市教育委員会)

など